

用が行なわれていないこと。

・使用される年表・歴史地図は、揭示用の総合年表や歴史地図、あるいは、教科書の巻末年表や歴史地図の利用にとどまっています。授業に必要な年表や歴史地図を教師自身がくふうして作り、これを利用していくことがたりないこと。

など、歴史学習のあり方からの発言が各種の会合で以前から何回となく論議されている。しかし、これらについて深い研究がなされず、授業への実践化が徹底していないというのが残念ながら現状ではないだろうか。

思うに、これらの原因は、つきつめて考えると実はもっと根元的なもの、すなわち、「歴史学習における年表と歴史地図指導の意義は何か」の問に対して、明解な解答を持っていないという不勉強さにあるのではないかと思うのである。

2. 年表と歴史地図指導の意義

歴史学習で、年表・歴史地図を指導することは、どんな意義をもっているであろうか。これを考えるのに、ま

ず、歴史学習のねらいを明らかにしなければならない。

歴史学習において、生徒の身につけさせておくべき基礎的なものとして、4つの要素が考えられる。

- (1) 歴史的事実・事象を正確には握させること。
- (2) 歴史的事実・事象の移り変わりや事実・事象と他の事実・事象との相互関係を総合的に理解させること。
- (3) 各時代の特色や歴史上における意義、影響を考えさせること。

そして、(1)~(3)についての理解を深め、望ましい歴史的態度と能力を身につけさせるための手順や方法として

- (4) 年表・地図その他の資料を活用する力を身につけさせることである。

これをさらに分析し、年表と歴史地図の活用が必要と思われる部分を洗い出し、整理してみることによって、年表と歴史地図指導の意義を考えまとめようとしたのが次の表である。

歴史学習の具体的なねらい	歴 史 年 表	歴 史 地 図
1 歴史的事実、事象を正確に把握させる。 (1) その事実、事象とは、どんなことからか。 (2) その事実、事象において主な役割りを果たしたのは、だれか。(人々) (3) その事実、事象は、いつ起ったか。 (4) その事実、事象は、どこで起ったか。	年表・歴史地図の記載文字の奥にある歴史世界の動きや、それにくわいていく歴史的な思考力、関連的な見方、考え方を身につけさせる。 ・人物年表~ (・活躍した時代) (知る) (・前後に現れる人物との関係) (知る) (・時代区分内(何世紀、何年、何年前、何年間)のできごと) (知る) (・日本史の流れの上における位置づけ) (知る)	人物の出生地、活躍した場所 (知る) (・発生、成立した場所、位置、距離) (知る) (・分布) (まとめる)
2 歴史的事実・事象の移り変わりや、事実・事象と他の事実・事象との相互関係を総合的に理解させる。 (1) 1つの事実・事象と他の事実・事象とは、どんな点で違っているか。 (2) 1つの事実・事象と他の事実・事象とは、どんな関係にあるか。 (3) 1つの事実・事象は、時代によってどのように移り変わるか。 (4) 1つの事実・事象は、地域によってどのように変って現れるか。	(・前後関係) (知る、考える、まとめる) (・因果・果因関係) (知る、考える、まとめる) (・同時代的相互関係) (知る、考える、まとめる) (・外国との関係) (知る、考える、まとめる) (・事象の変化) (知る、考える、まとめる) (・事象の発展) (知る、考える、まとめる)	(・自然と人文との相互依存関係) (知る、考える、まとめる) (・外国との関係) (知る、考える、まとめる) (・発達) (知る、考える、まとめる) (・伝播) (知る、考える、まとめる) (・衰微) (・地域的な差異) (知る、考える)
3 時代の特色や歴史上における意義・影響を考えさせる。 (1) 1つの時代区分内に起ったいろいろの歴史的事実・事象の間にはどんな共通性があるか。 (2) 1つの時代区分内のできごとは、他の時代区分内の歴史的事実・事象とどのような点で性格的に違っているか。 (3) 1つの事実・事象は、歴史全体の上にもどんな影響を及ぼしたか。 (4) その時代区分内の特色は、歴史全体の上においてどのような役割りをもっているか。 (上記は、藤原正教氏の表を一部引用する。)	・時代区分内の共通性 (考える) ・時代区分内の特色 (考える)	
4 年表・地図その他の資料を活用する力を身につけさせる。	(・読みとる) (作る)	* (まとめる) ~ 年表や地図を作成しまとめる。 (・読みとる) (作る)

このように分析して考えてみると、年表と歴史地図を活用することは、歴史的理解を奥行深く身につけさせるのに有効な方法であるとともに、単に、年表と歴史地図が歴史的理解を助けるために使われるだけでなく、歴史的事実を正確には握し、諸事象を歴史の中に正しく位置づけて、その前後関係を考えさせたり、歴史的な由来(時間・空間的)や後世への影響を考えさせたりすること。さらに、その事象が現在の状態になるまでの歴史的経過を考察させたり、生徒が諸事実・事象に対していく誤りを修正したりしながら、諸事象を公正に判断しよ

うとする態度と能力の基礎を養うために、必須不可欠のものであることがわかってくる。

3. おわりに

以上の意義をふまえ、年表と歴史地図の指導観を確立し、指導の計画化を図り、1時間1時間の歴史学習において、年表・歴史地図の読みとりと作成についての基本的な知識を習得させ、技能を訓練しながら活用を図っていくことが、前述の原因除去となり、年表・歴史地図指導のねらい達成につながるものと考えられる。